

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2021年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2022年 4 月 26 日 提出

1. 研究課題名	
京都 大徳寺塔頭 玉林院所蔵 大徳寺 273 世大心義統の著作を編纂した板木データベースの構築 (英文課題名 Construction of the Database of printing blocks of selection from Daishin Gito's works (the 273th chief priest of Daitoku-ji Temple) owned by Gyokurin-in, sub-temple of Daitoku-ji Temple in Kyoto City)	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
森 慈尋	花園大学国際禅学研究所客員研究員
3. 研究分担者 (合計: 1 名)	
氏名 (ふりがな)	
〔日本語〕 〔ローマ字〕	所属機関・職名
田口 幸滋(たぐちこうし)	〔日本語〕 禅文化研究所所員
4. 研究課題の概要 (300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)	
<p>大徳寺山内塔頭 玉林院に所蔵されている大徳寺 273 世大心義統監修の著作を蒐めた版木 129 枚 (別紙添付) の整理とデータベースの構築を行う。大心義統 (1657-1730) は、妙心派の無著道忠と並ぶ江戸時代中期の学僧で、生前に多くの著作を残した。しかし彼の著書や出版に関する研究は、まだ殆ど行われていない。大心が京都ではなく泉南、堺を中心に布教していた事も一因であるが、そのため、臨済宗以外に黄檗宗や律宗の僧侶との繋がりも深く、禅楽寺に大蔵経をの経蔵を設け、公開の形で教学の指導に当たった事が伝記資料に記されるなど、その活動はたいへんユニークである。その他に、堺という地方で出版された一連の著作と檀越の中村氏や茶人を中心とした人的ネットワークの再検討、さらには版木を詳しく調査していく事で、江戸中期の地方出版と、黄檗版大蔵経を中心とした仏教書出版事業との関わりについても解明が期待できる。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>2021 年 12 月 1 日より採用が決まり 2022 年 4 月初旬に、板木 135 枚 (撮影枚数約 2700 枚) の撮影が終わった。次年度は撮影データの点検、板木の計測と板木全体の撮影、板木データベース作成のための画像編集を行いたい。</p>	

6. 研究業績 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

(1) 著書

(2) 論文

花園大学国際禅学研究所論叢 第16号 『弁慧考 —その出生をめぐる諸問題(上)』 査読無

(3) 研究発表等

2019年12月13日

台湾中央研究院 ワークショップ『禅学思想史—従伝統到現在—』廖肇亨先生主催

演題 『黄檗宗與日本近世臨濟宗永源寺—警策與齋堂的比較研究』『永源寺的歴史・景觀與文献』

査読無

2022年2月25日

ARC 2021年度成果発表会

演題 『京都大徳寺塔頭玉林院所蔵 大徳寺 273 世大心義統の著作を編纂した板木データベースの構築』

査読無

2022年3月24日

戒律文化の研究会

演題 『一絲文守と戒律復興運動—一絲派僧侶の活動を中心に』

査読無

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

禅文化研究所と提携して栗東歴史民俗博物館所蔵『永源寺文書』データベース作成に向けた撮影調査